

つた處の抑揚頓挫は微妙な變化を傳へて居るのである、是れを見て後を見ると夫所に「巴里のゴロツキの首」が硝子の函に入つて居るわづか二寸ばかりの一塊の銅のかたまりである是れには「マラムロダン」に見る様な線の美しさも肉の柔さも無いか只一個のスケツチとして如何にも汚ない巴里の裏町邊をウヨ／＼して酒と女と賭博に入り浸り居る浮浪の徒の特質を力強く表現して居る様に思われる。

扱て是れ等の小さな三つの作品で彼のバンスサーやベザイやパルサツクや其他無數の偉大なる彫刻を作出した作者の面目特質をしのぶには餘りに僅少ではあるが、然しこれ等の三つの彫刻を熟視すれば其處に自ら作者の特質の躍然たるの感ずるのである、諸先輩の談論中翻譯や作品の寫眞によつてをぼろげながら描いた作者の特質か此の三つの彫刻によつて更に確實に且つ鮮明にされたのを覺ゆるのである、此の三つの小さな彫刻はロダンの言葉を立派に證據立て居るのである、此の三つの彫刻の自分等に及ぼした私益や感化は決して鮮少では無い。此の三つの彫刻が自分等に進むべき路を指し示し且つ確信を與へてくれたのを心から感謝するのである。

### ロダンの彫刻三ツ

▽浮世繪のお禮に貰ふ

二月廿五日まで赤坂區靈南坂下三會堂で開催の白樺社主催第四回美術展覽會の奥まつた第三號室に陳列されて居る三個の小さい青銅像がある

▲作者の名はオーギュスト、ロダンと云ふて其道の人は誰知ら

ぬ者なき佛蘭西彫刻界の巨匠、批評家の或る者などはミケロアンゼロと比較して居る其作品は佛國の國寶と迄云はれ歐洲でも翁の彫刻を有して居るのは只ベルギー一國あるのみ然るを東洋の一小國が而も三個を有することは日本の誇りであると齋藤與里氏は云つて居る

▲一體白樺社が如何にして斯る珍寶を手に入れたかと云へば一昨年十一月ロダンを崇拜するの餘り翁の七十回誕生の記念號を發行して其作品の寫眞及び批評などを載せた其時ロダン翁は日東華胄の若殿原が自分を拜崇して記念號迄出して呉れるのを喜んでと見えて白樺社に手紙を寄せ日本の浮世繪を送つて呉れるならばデッサン(下繪)をお禮に送らうと書いてよこした

▲茲に於て白樺社同人は根が華族の若様連の事とて早速北齋歌麿等を三十枚許も買集めて送つた、すると翁は非常に喜びデッサン位ではお禮が少いとも思つたか小さい乍ら青銅像三個を送つて來た其價は三圓程だと云ふ四個の名は「ある小さき影」「ロダン夫人銅像」「巴里ゴロツキの首」と云ひ第一は一尺五寸許、第二は一尺許、第三は四寸四方位の者である

▲日本では故萩原守衛氏がロダン翁の感化を受けて歸朝して以來非常にロダン熱が熾になり毎年の文部省展覽會にも其影響を受け乃至は其模倣とも見らるゝものが盛に出品される迄に至つたが此等は多く寫眞を見て研究した者許りてロダンの眞物は中村不折氏外一二の巴里遊學者が貧弱な素描を持つて居る許りであつた

▲政府の手にも金力にも依らず却て華族の若様が寄集つて道樂半分に文藝を樂む白樺社同人の手に三個の青銅像が落ちた事は面白い事である展覽會は去十六日から開き廿五日に閉會の筈であるが都下の畫家彫刻家文學者及び文藝趣味ある男女學生で毎日引も切らぬ有様である(東京朝日新聞)